

# 会津若松市における歩けるまちづくり

A2201203 大石晴加 A2201204 大竹岬 A2201207 菊池李奈

A2201222 橋本佑美 A2201226 皆川朱璃

## 研究の背景

会津若松市は、人口減少、少子高齢化が進んでいる。これは全国的にも同様のことが言え、食い止めることは難しい。その上で、現状を受け止め、市民にとって快適かつまちなかの賑わいをつくる必要があると思う。また、会津若松市は観光のまちであることから、まちなかの賑わいを取り戻すには観光に対する新たな視点や対策が必要である。そこで私たちは、コンパクトシティやスローシティの考え方を基に、「会津若松市における歩けるまちづくり」をテーマとして、研究することにした。

## 研究の目的

まちなかをコンパクト化することで、市民にとって暮らしやすい、歩いて暮らせるまちづくりを目指すとともに、近年の観光への対応として、観光客にまちなかの散策を楽しんでもらえるようなまちづくりを目指す。

## 研究のプロセス

まずテーマ選定の予備調査を行い、まちなかで感じたことをダイアグラムにまとめる。視点（交通・生活・地域・観光）を決定し、現状を知るためヒアリング・資料収集等を行う。その後、視点ごとに分担し、問題点の抽出・整理、現状分析・検討や資料収集を経て、対象を整理し、方向性を明確にする。その後アイデアを出し展開していく。各視点の具体的な解決案や改善策、新規提案をする。最終的に総括する。

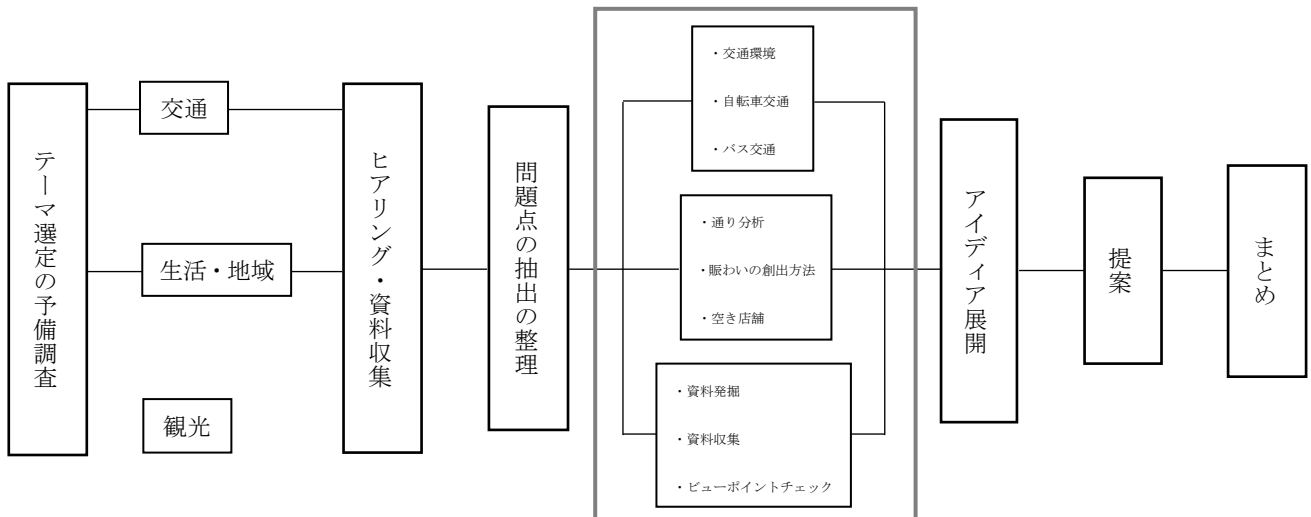


図1 研究の方法

### ○バス交通

①市役所地域づくり課へバス交通の現状をヒアリング。②白地図にルートと便数を落とし、空白地域(バス停から半径300m以内に含まれない場所)などの問題点を抽出。③どの通りにバス路線があれば良いか、どういうシステムを導入すれば良いか考え分析。④バス起点を中心市街地である神明通りにし、ルートの見直しをするとともに新たな交通システムの提案をする。

## ○自転車交通

### ・駐輪場及び通学における自転車交通

①主な駐輪場の現状把握（位置、規模、利用状況）。②自転車交通レーンの現状調査。③現状の問題点の抽出。④駐輪場の事例調査、デザイン調査。⑤改善案の提案。⑥図面作成。⑦模型製作。

### ・レンタサイクル

①レンタサイクルの事業所へのヒアリング調査。②レンタサイクルの現状分析。③レンタサイクルを用いた観光ルート of 検証。④レンタサイクル用の観光ルートの提案。

## ○空き店舗・空き地

①観光客や市民がよく活用する場所として(神明、大町四ツ角、市役所、大町駅前、七日町、会女、栄町四丁目、中央、鶴ヶ城) 9つの通りに絞り込む。②主な通りの空き店舗・空き地の調査。③空き店舗の利活用法を検討し、提案。④活性化に寄与する空き店舗・空き地のモデル製作・モックアップの製作。

## ○街灯

①主な通りの街灯の照度調査。②デザイン提案をする対象通りを決める。③現地調査。④アイディアスケッチからデザイン案を固める。⑤図面作成⑥模型製作

## ○観光

### ・教育旅行

①市役所観光課や観光物産協会に、市内来訪の教育旅行の現状などについてヒアリング。ネットを活用して全国の教育旅行の現状などについて調査。②ヒアリング、調査結果を分析。③教育旅行を支援するツールの検討。④教育旅行のルート及び支援ツールの提案。

### ・ビューポイント

①観光課へのヒアリング②ビューポイントを用いたツールの調査。③市内の観光地やまちなかのビューポイント探し。（主に風景・建物・記念撮影スポット・面白写真など）④集めたビューポイントを、Excel を使い、表にまとめ、地図に落とす。⑤ビューポイントを混ぜ込んだ観光ルートの提案⑥ビューポイントのツールの仕組み考案。

## 成果物(完成作品)

### ○バス交通

抽出された空白地域の一部にバス路線を変更する。一部のバス路線の起点を会津若松駅から中心市街地である神明通りに変更する。

狭隘道路地区やバス交通空白地区が存在するとともに、バス交通の便数が少ない不便地域も多く存在することから、利用者の便宜が図れる予約乗り合い方式の“ドア・トゥー・ドア”のサービスを実現するオンデマンド交通システムを採用する。

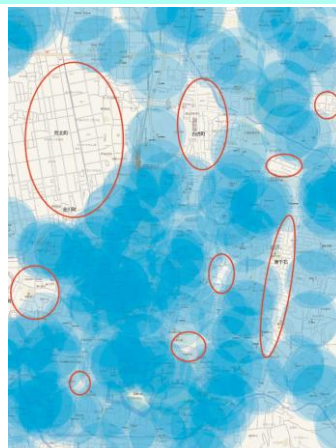


図2 バス交通の空白地域(丸印)



図3 提案するバス路線図

## ○自転車交通

会津若松駅前駐輪場において、現在多数の利用台数があるにもかかわらず道路の整備、雨風、雪を防ぐ屋根等の整備がされていない状況である。そこで会津若松駅前駐輪場の整備計画を提案した。

通学における自転車交通については、主な駐輪場と通学で使う道路の安全性検証をしたが、概ね確保されているといえる。ただし昨年12月に改正された道路交通法に伴い、片側路側帯で自転車の通行を確保していた地域では、左側通行が確保されない地域がでてきて問題となった。

観光における自転車交通は、推奨されているモデルコースをレンタサイクルで廻る場合を想定して検証した。またレンタサイクルのステーション位置などについても検証した。



図5 モデルコースの検証

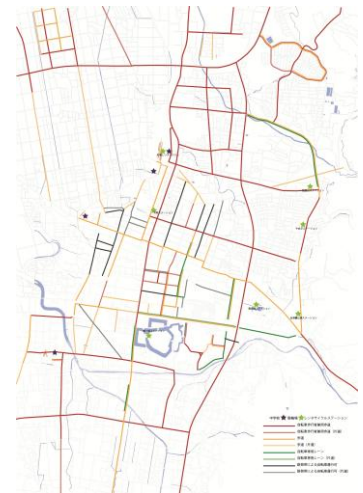


図4 自転車の安全性の検証図

## ○空き店舗・空き地

①観光客や市民でも気軽に立ち寄り、リピーターを増やすことのできる店舗『i's Wheel』を提案する。対象を子供(又は親子)として、女兒向けには、会津桐製の着せ替え人形セット「さくらら」を、店舗めぐりで完成させる方法。男児向けには、会津桐製のまちづくりセット「ぼくのまち」を店舗めぐりで完成させる方法を考えた。女兒関連店舗では洋服、和服、靴、アクセサリー、家具やペットなどを各個店で販売する。男児関連店舗では家、庭、道路、線路、人などを各店舗で販売する。これらは空き店舗を複合的に再生させ、ストーリー展開することで必然的にまち歩きを行うことになり、活性化にも寄与するものと思われる。

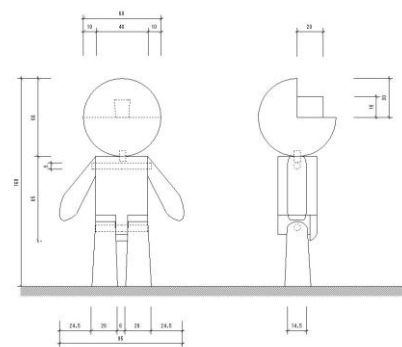


図6 着せ替え人形「さくらら」

②空き地の活用方法については、中心市街地の活性化や賑わいを取り戻すことをねらいに中合跡地をバス交通のステーション化するとともに、若者をまちなかに集えるような神明寮(中・高・大学生を対象)を提案する。

## ○街灯

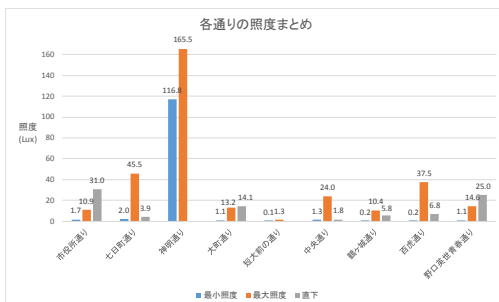


図7 照度調査の結果

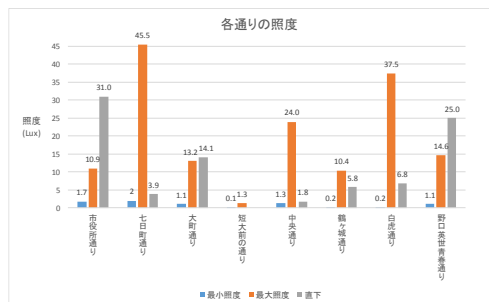


図8 照度調査の結果(生命なし)

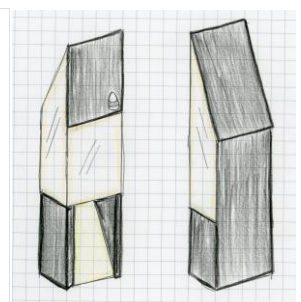


図9 足元灯のデザイン案

## 街灯の図面・模型

## ○観光

### ・教育旅行

ヒアリングなどから現状分析を行った結果、教育旅行の際には班別研修が設けられている学校が多いことがわかった。また、会津の観光の際に、有名な観光地だけをまわるのではなく、町を歩いて様々なものを見てほしいという意見を頂いた。このふたつのことを基に、班別研修の際に活用できる会津の戊辰戦争について学習する教育旅行ツールを考えた。

### ・ビューポイント

教育旅行同様に、観光の際にまちなかを見てほしいという意見を頂いたので、ただ鶴ヶ城などの有名な観光地を見るだけでなく、新たな観光資源とし、ビューポイントを見ながら記念写真撮るなどして観光スポットを巡り、より会津を楽しんでもらうためのツールが有効と考え、今回はそのデータ収集を行った。



図10 教育旅行支援ツール  
『歩いてまわる 白虎の町 コンプリートマップ』

No.	ビューポイント名	住所	緯度	経度	写真撮影可能	備考
1	鶴ヶ城	会津若松市鶴ヶ城	36.5667	138.5667	○	
2	白虎の町	会津若松市白虎の町	36.5667	138.5667	○	
3	...	...	...	...	...	...

表1 ビューポイントデータ(一部)

## 考察

会津若松市における歩けるまちづくりというものは、人口減少、少子高齢化などの現在の会津若松の問題解決の手段として有効と考える。また、会津は観光のまちであるので、まちの賑わいを取り戻すためには観光客を歩くように誘導する必要があると考える。

今回のそれぞれ5分野の提案は、上記の問題を解決させる一つ的手段として有効と考える。まず、空き店舗や空き地を活用して子供たちが必然的に回るしくみを提案することで、観光地だけではなく、まちなかを散策するようになるので、新たな観光資源の発掘となり、まちなかの活性化にも繋がると考える。そして、バスやレンタサイクル等の二次交通を身近なものにする提案をし、点在する観光地へのアプローチがしやすくなる。また、交通弱者にとっては移動がしやすく、生活に支障がなくなると考える。夜間の通行に関しては、会津らしい街灯を提案することで、市民には夜間の通行の安全性を確保するとともに、歩ける夜間観光の補助として、また資源として使えると考える。ビューポイントにおいては、風評被害で減少した観光客のために、新たな視点で観光を楽しめる材料といえる。教育旅行においても、現地でしかわからない会津ならではのストーリーを楽しめる提案となったと考える。

しかし、時間やスケジュール管理の不手際から、調査の段階で断念し、提案までできなかった分野や、完成後の実証実験などを行うことができなかったため、まだまだ見直しや改善が必要と考える。今回の提案は、会津若松市における歩けるまちづくりの第一歩と位置づけたい。